



米本 隆記 議員

農業公社を作れないか

町長

新たな組織は考えていない



町内に点在する耕作放棄地

【米本】団塊の世代が第二の人生に都会から農村に移り住む人が多いと聞く。本町に定住し農業をしようとしても、貸す農地が荒れていては作付ができません。農機具を購入しようにもやってみないと実際にどこまでできるのか不安もある。

耕作放棄地の管理・運営をする組織があつて、農地や農機具の提供ができれば定住対策にもなり、耕作放棄地の防止にも寄与すると思うが考えは。

【町長】農業研修制度として、アグリマイスター制度や親元就農への支援をし、地域農業の後継者や担い手を育成している。

研修や関係機関との連携で農業技術だけでなく機械設備への知識を深め、地域との交流を通じて農地の^{あつせん}の幹旋も進むと考える。

また、農作業の人材紹介システムの構築を目指し、労働力対策を進め、耕作放棄地の発生を防ぐので農業公社は考えていない。

失語症の認識は

町長

理解している人は少ないと思う

【米本】失語症とは、脳卒中や脳腫瘍・頭部に受ける外傷などによって、脳を損傷し言葉の機能を損なう高次脳機能障害の一つ。話すだけでなく聞く、読む、書くのそれぞれに影響が残る。

重症者は脳の障害によって他の障害を併発している人も多くいる。失語症は重い障害でありながら外見に現れず、社会の理解や支援が乏しいため社会復帰も難しい。失語症に対する認識は。

【町長】どういった障害なのか理解している人は少ないと思う。

【米本】町内在住者の把握はできているか。

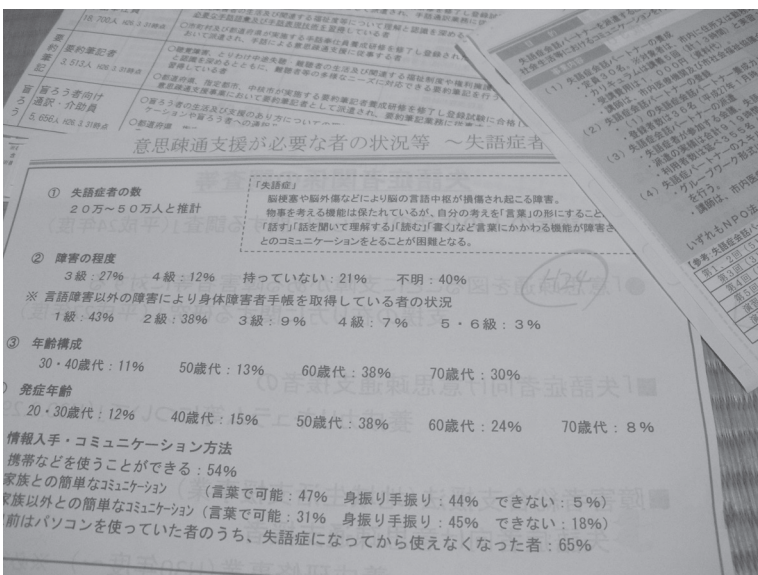
【町長】音声又は言語機能の障害認定による障害者手帳保持者は把握

しているが、失語症での把握はできていない。

【米本】失語者の災害時の対応は。

【町長】要援護者として支援を必要とする人はデータベース化して考える。

その中に失語症の原因となった病気などによって、要援護者として支援が必要な人はデータベース化されていると考える。



若年層にも増えつつある失語症